

IR・SD 推進本部が実施している教学 IR の主な内容・改善事例

IR・SD 推進本部において調査分析した学修成果、学生アンケート等については、関連する委員会や大学方針を決定する会議体へ報告を行い、各部門における状況把握・改善検討に活用している。

主な分析事例、改善事例は以下のとおりである。

※以下の取組等については IR・SD 推進本部以前の IR・SD 推進室での取組を含む

1. 主な調査・分析内容

1) 学修成果関連調査

- ・学年ごと GPA 分布状況<分析結果概要添付>、修得単位数等の把握・分析、教育の質向上委員会が実施・集計する卒業時到達目標アンケート、卒業生アンケート結果等の把握・分析
- ・入試区分ごと、面接結果ごとの入学後成績、国家試験合否状況、学籍異動等の調査・分析
- ・国家試験結果分析（合否結果と各学年次の成績、模試、入試区分等との関連性分析）

2) 学修行動調査

学生の学修時間や学修への意欲等の調査・分析<分析結果概要添付>

3) 授業評価アンケート結果

教育の質向上委員会が実施・集計する授業評価アンケート結果の総合評価の分析<分析結果概要添付>。

教育の質向上委員会において、授業評価アンケート結果を受け、科目責任者に対し次年度に向けた考察と課題の提出を依頼することで授業改善に繋げている<分析結果概要添付>。

4) 学生満足度調査

教育内容・教育方法、学修支援、図書館、施設関係等に関する学生満足度を調査・分析。その結果を各種委員会等へ通知、各種委員会において対応・改善策を検討し、学生へ開示している。

2. 主な分析結果

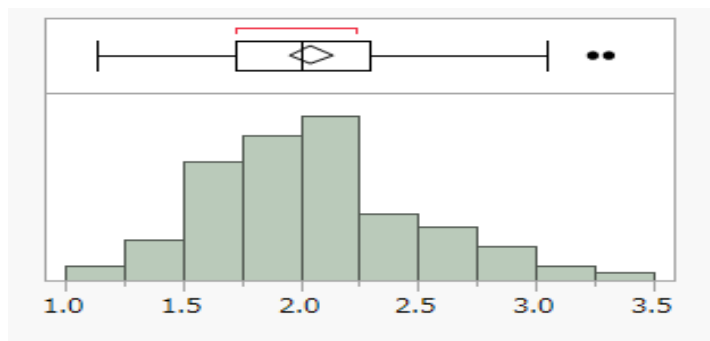
1) 学内試験結果：GPA分布調査

本学では、学生の学習意欲を高めるとともに、厳格な成績評価と適切な学修指導に資することを目的に、各授業科目の成績評価に対応してグレード・ポイント（「GP」）を付与して計算する1単位当たりのGPの平均値（GPA）を採用しています。本学では、通常の5段階評価（10点区切り）に基づく計算でなく、より厳格な数値の算出が可能となるように1点単位でのGPAを計算しています。（例：78点のGPは $(78-55) \div 10 = 2.3$ ）

以下に、令和四年度に各学年（看護学部）が履修した必修科目のGPAの分布状況を

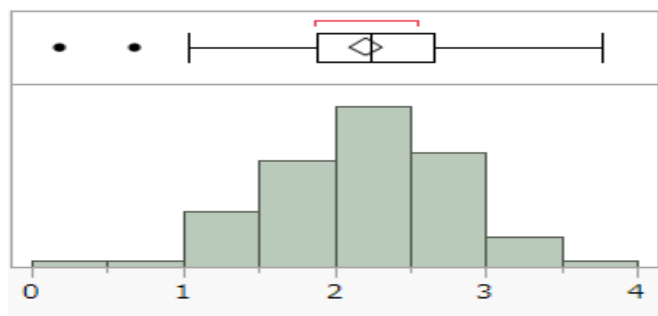
示します。令和三年度の結果と比較すると、学部1，3年で、中央値がやや減少しました。（令和三年度中央値：学部1年 2.5、学部2年 2.2、学部3年 2.4、学部4年 2.9）また、各学年の科目内容にも影響しますが、上級学年になるにつれて、中央値が上昇する傾向が見られました。なお、各学年により履修科目が異なるため、学年ごとの学力状況を比較するデータではありません。

令和四年度 1 年生GPA 分布（1 年次必修科目）



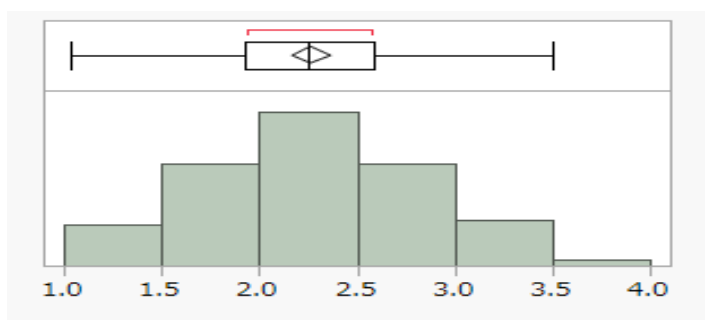
最大値	3.3
四分位点	2.3
中央値	2.0
四分位点	1.7
最小値	1.1

令和四年度2年生GPA分布（2年次必修科目）



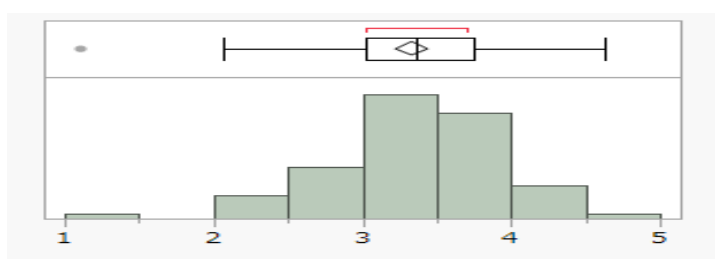
最大値	3.8
四分位点	2.7
中央値	2.2
四分位点	1.9
最小値	0.2

令和四年度3年生GPA分布（2年次必修科目）



最大値	3.5
四分位点	2.6
中央値	2.2
四分位点	1.9
最小値	1.0

令和四年度4年生GPA分布（3年後期～4年次科目必修科目）



最大値	4.6
四分位点	3.7
中央値	3.4
四分位点	3.0
最小値	1.1

2) 学修行動調査

ア. 自己学修時間

本学では、学生の学修への意欲や取組み状況を把握し、その結果を学修支援に役立てるため学修行動調査を実施しています。調査の一項目として、授業以外の「自己学修時間（分）」についても調査を実施しています。全体および学年別に集計した結果は以下のとおりです。

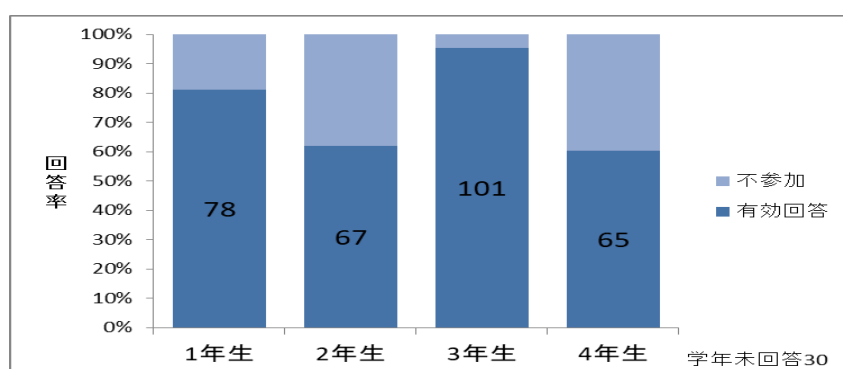
学修行動調査における授業以外の1日あたりの自己学修時間（分）

※ヒストグラムの横軸は時間（分）、縦軸は度数を表す

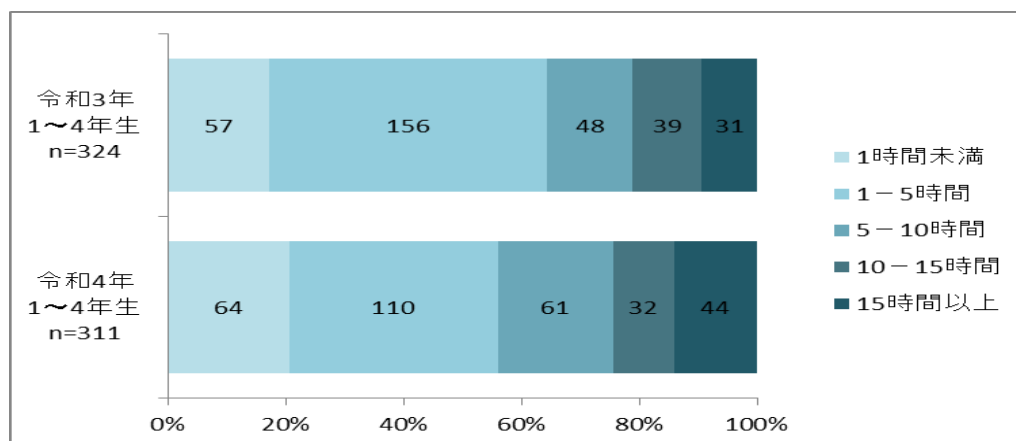
対象者 424 名（休学 6 名除く） 回答数 347 名（回収率：81.8%）

有効回答数 311 名（有効回答率：73.3% 前年度比 95.8%）

調査時期：令和4年7月～11月

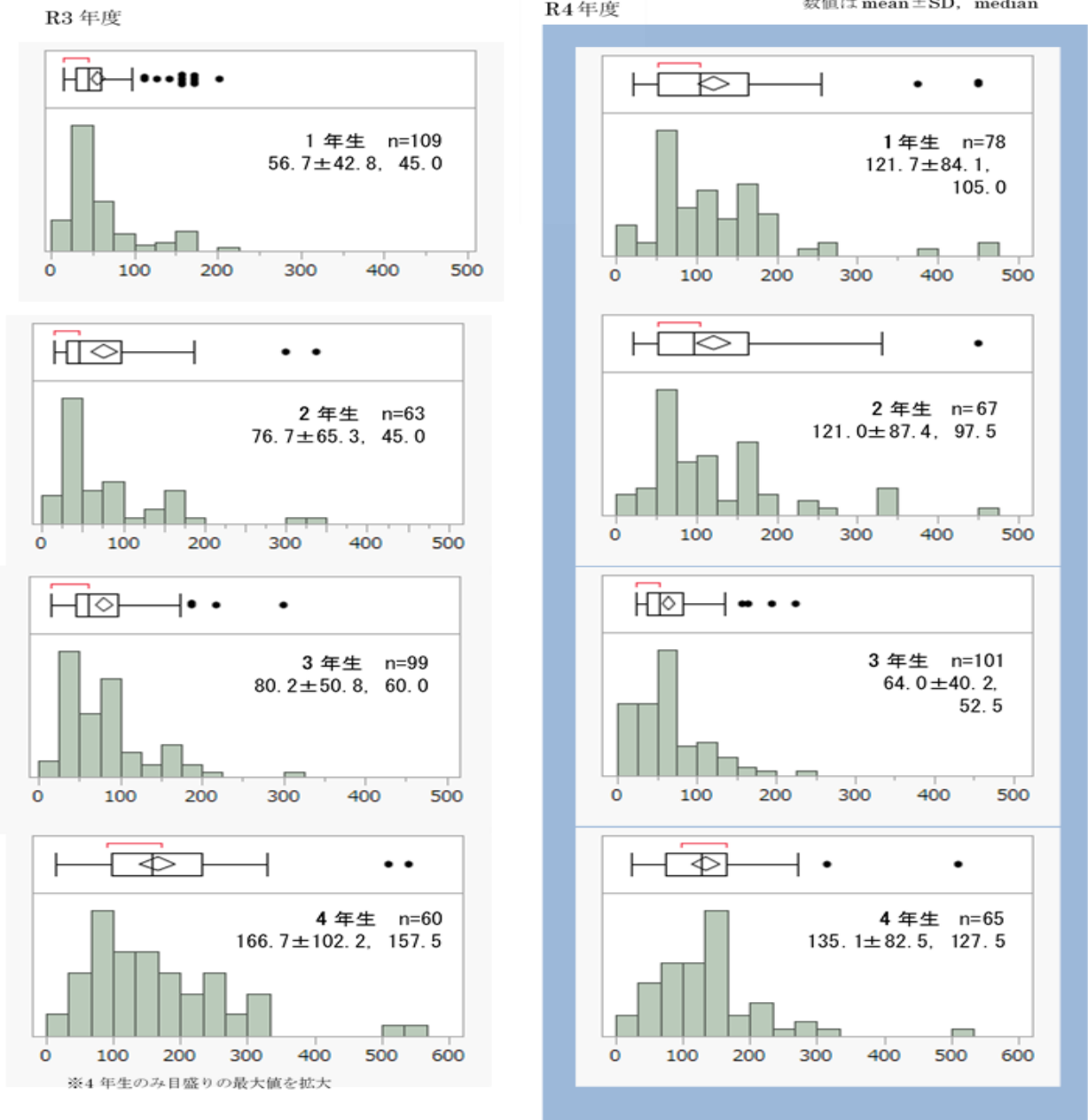


1 週間平均自己学修時間 全校 年度比較



1日平均自己学修時間 学年および年度間比較

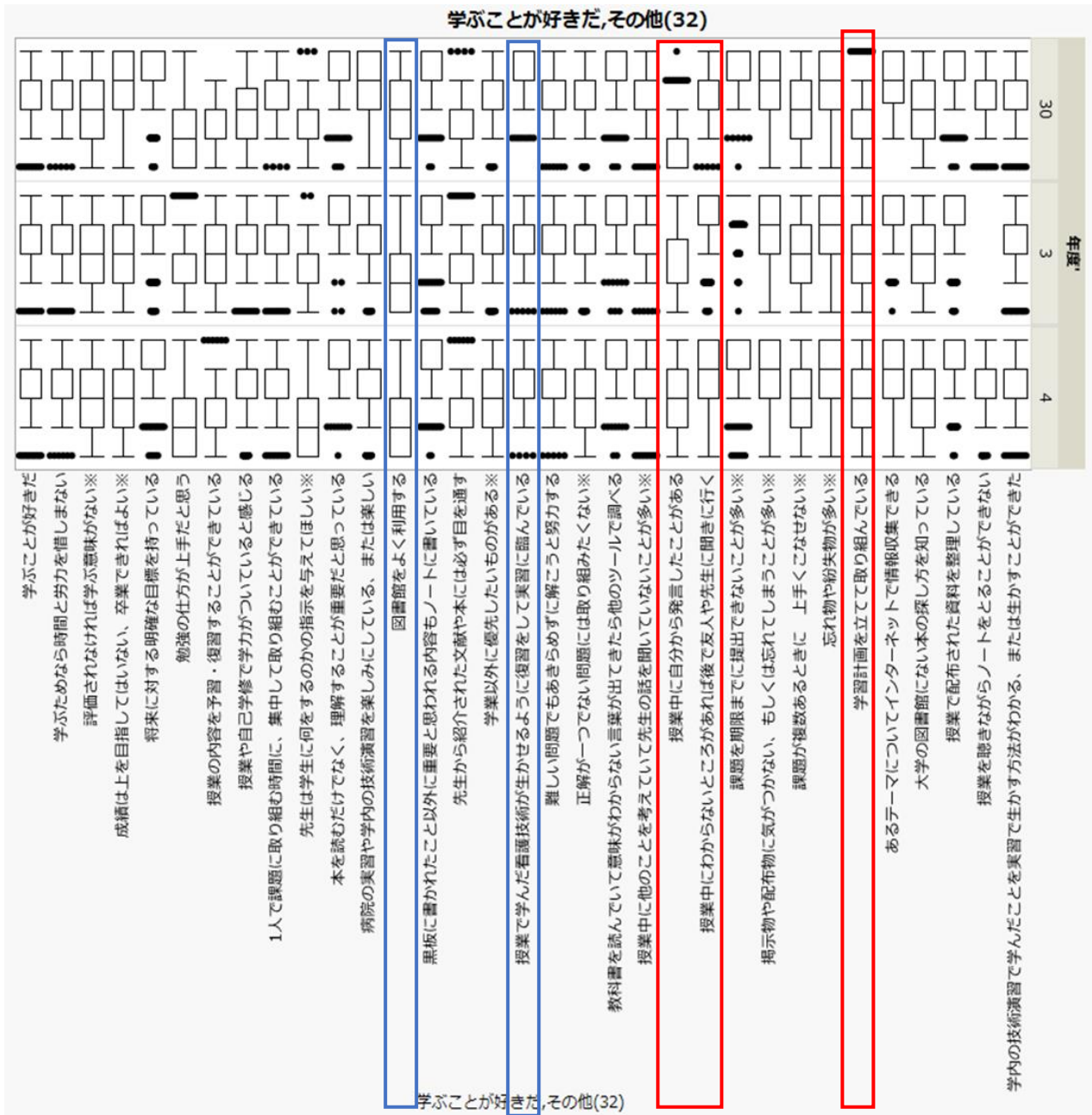
ヒストグラムの横軸は時間（分）
縦軸は度数を表す
数値は mean ± SD, median



大学全体では、令和3年度と比較すると、令和4年度は学修時間が長くなった者が増加している一方、1時間未満の者も増加し、両極性が顕著といえる。この傾向は年々強くなってきている。
学年単位では令和3年度と比較すると、1・2年生の学修時間が増加し、3・4年生は減少している。

イ. 学修行動得点

学修行動得点は、点数が高いほうが望ましい学修態度や行動がとれていることを示す。令和3年度と比較すると、やや低い点数に偏っている傾向がある。項目別では、コロナ禍前の平成30年、令和3年、令和4年の3年間で比較した。令和3年と令和4年の傾向は大きく変化していないが、コロナ禍前と比較すると、異なる傾向が見られた。「授業中の発言」、「わからないところを友人や先生に聞く」、「学修計画を立てて取り組む」はコロナ禍前より向上した項目である。一方、「図書館をよく利用する」、「復習をして実習に臨む」はコロナ禍前より低下した項目である。



学修時間と学修行動の関連

すべての行			
度数	642	対数値	差
平均	96.265576	18.668473	51.4775
標準偏差	76.899913		

図書館をよく利用する(., 1, 2)		図書館をよく利用する(3, 4, 5)	
度数	421	度数	221
平均	78.545131	平均	130.02262
標準偏差	63.68267	標準偏差	87.989537

1日の学修時間に対し、全ての学修行動のうち最も関連が強いのは「図書館をよく利用する」であった。利用する者(3,4,5) 130分に対し、利用しない者(1,2)は78分と少ない傾向にある。

3) 授業評価アンケート結果

本学では、教育内容・教育方法の改善を目的に全科目について学生による授業評価アンケートを実施しています。アンケートは12の質問項目から構成され、今回、科目の総合評価である「本講義に対する総合評価はどうでしたか」に対する集計結果（令和四年度調査；看護学部集計分）を公表（表1）します。

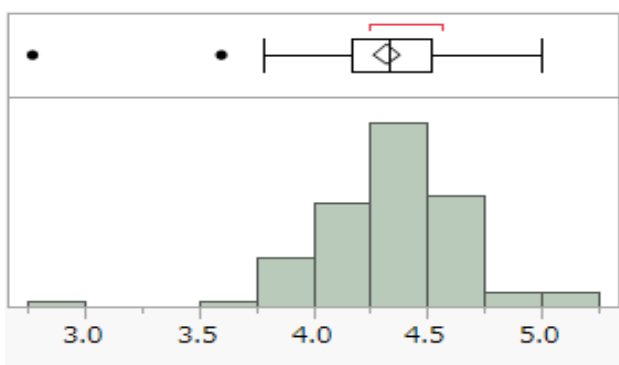
令和三年度の総合評価結果（令和三年度実績：平均値4.28、中央値4.27（表2））と比較し、若干の上昇となりましたが、過年度と比較しても、ほぼ同程度の結果となり、また、評価4は「よい」を意味しており、平均・中央値とも4「よい」を超える結果となりました。

各科目単位の結果を科目責任者に返却し、その結果を踏まえ「考察と課題」を科目責任者が提出することで授業改善に繋げていきます。

（表1）

『本講義に対する総合評価はどうでしたか』に対する全科目（実習科目を除く）の集計結果（令和四年度）

5. 非常に優れている 4. よい 3. 普通 2. やや劣る 1. よくない

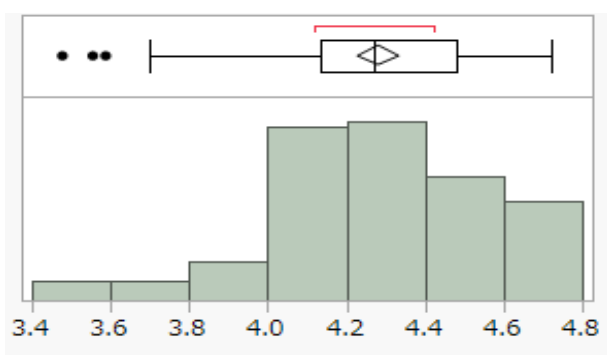


科目数	112
平均	4.32
標準偏差	0.30
中央値	4.33
範囲	2.77- 5.00

（表2）

『本講義に対する総合評価はどうでしたか』に対する全科目（実習科目を除く）の集計結果（令和三年度）

5. 非常に優れている 4. よい 3. 普通 2. やや劣る 1. よくない



科目数	105
平均	4.28
標準偏差	0.27
中央値	4.27
範囲	3.48- 4.72

3. 主な改善事例（過年度事例含む）

- ・学修行動調査（課題重複時の対応困難さ）、学生満足度調査の結果を受け、多重課題とならないよう、課題提示状況一覧の作成と学内教員における情報共有を企画、また、コロナ禍、図書館利用に関する調査結果が低下することも予想され、図書館において、学外からの文献へのアクセス可能なシステムを開始（結果としてアクセス数はコロナ禍前より増加）。
- ・学生満足度調査結果、学修行動調査、国試結果分析等（低学年からの就職・進学支援の希望、学修時間の学生間差、国試結果と学内・模試成績関連分析等）を受け、低学年からのキャリアガイダンス（看護専門職になるための今後の学修への動機付けを含む）、低学年からの学生の主体性を踏まえた学修支援の方法・内容の検討・継続、また学修環境整備への意見を踏まえ、パソコン室パソコンのスペック向上、講義室 AV 機器性能向上、授業時長時間着席できる椅子クッションの整備等を実施。
なお、学生満足度調査結果に関しては、学生からの意見を踏まえて大学（各委員会等）からの学生への対応回答を公表。
- ・入試区分別の学修成果（特定入試区分における入学後高リスク<学籍異動、国試合否状況等※詳細分析結果は学外非公表>）を踏まえた、当該入試区分定数の見直し。